



国際開発研究会 – JIU SID Society

代表: 国際人文学部国際交流学科3年 木原あすか
チームメンバー: 吉沢広基・ガルシアアヤコ・佐藤泰紀

「自然や人との優しい繋がりと持続可能な社会の実現のためにできること」ー ジェンダー・チーム

ジェンダーと人権・異文化理解

私たちは、ジェンダーや差別に関わる問題や、異なる文化への理解を深める活動に取り組んできました。グループワークでは、主に、女性に対しての差別や偏見に関して、それぞれが気になる出来事などを持ち寄り、ディスカッションをしました。ジェンダー意識についてや、異文化理解に繋がる活動とはなにかを考えながら、活動に取り組んできました。そしてどのような大学生の行動が、特にSDGsの目標5の達成に繋がるのかを考えて行動しました。

① ジェンダーについて“ニュース”から考える:グループワーク (毎週木曜日)

ニュースの中では、最近、ジェンダーに関わることを耳にすることが増えてきました。ジェンダーへの理解不足から、日常生活の中で問題を抱えている人々は大勢いると思います。私たち国際開発研究会のなかでも、ジェンダーに関わる問題を感じたり、経験したことがある人もいます。しかし、ジェンダーやジェンダー平等について、高校などの学校教育で学ぶ機会は、それほど多くありません。したがって私たちは、毎週金曜日に集まり、共通のテーマをもとにディスカッションをし、身近なジェンダー問題について理解を深めました。活動を通して、異なる意見を聞き、知識を増やしていくことには大きな意味があると感じました。

② “The Guilty Clothes Collection: The Most Provocative Fashion Show Ever” (YouTube)

The Survivors Trustというチャンネルにあるファッションショーに関する動画が気になり、グループでそれを視聴し、ディスカッションしました。それは性被害にあった女性たちが着ていた服のファッションショーでした。ファッションショーは、2017年3月30日に行われましたが、「女性がどのような服を来ていても、性被害を受けてはならない」というメッセージが込められています。また被害者がこれにより恐怖を克服し、声をあげられるようにすることも目的だとしていました。このようなテーマに基づき、意見交換したことで、色々な気づきを得られました。(<https://www.youtube.com/channel/UCVIZcMWJA8q-kY2pE-fVH-w>)



③ 国立歴史民俗博物館 「性差(ジェンダー)の日本史」展

2020年11月21日、千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館の「性差の日本史」展に参加しました。古代から現在までの日本社会の中での女性の地位や役割の変化などについて学びました。男女の仕事も、かつて東日本、西日本で異なっていたそうです。また、今ある性別役割分業は、比較的新しい価値観であると気づきました。博物館に行き、歴史的な見解を取り入れることで、私たちが今後解決していかなければならない課題が、今まで以上に見えてきました。

異文化理解のため、2021年1月に、千葉イスラム文化センターの訪問を予定していましたが、コロナの影響で、実現できなかったのがとても残念でした！

まとめ

私たちは、オンラインでのディスカッションや博物館への訪問を通じて、新鮮な意見を聞いたり、議論しました。しかしSDGsの目標達成のために、やるべきことはまだまだたくさんあると感じています。現在でも、男女平等とはいえない状況は続いています。社会に浸透している偏った見方や考え方を変えていくには、まだ時間がかかるかもしれません。しかし、変えていこうという意識を持って取り組んでいくことが重要なのだと考えました。そのため、私たちは今後も気になる事柄について話し合い、SDGsの目標達成のために、また人との優しい繋がりのために、今後もこの活動に取り組んでいきます。